

「お母さんを甲子園に」

光星・青木(3年) 夢かなえ本番で結果

第105回 全国高校野球選手権大会

16日の全国高校野球選手権3回戦に勝利し、3大会ぶりの8強入りを決めた八戸学院光星。大阪府出身の外野手青木虎仁(18)3年(注)は、3人きょうだいを一人で育ててくれた母宏恵さん(43)への感謝の思いを胸に打席に立った。結果は2安打2打点の活躍。スタンドで見守る母に、立派に成長した姿を見せた。(棟方好華)

「お母さん、僕が甲子園に勝つのは、僕がお母さんを甲子園に連れて行く」という夢は揺らぎなかった。練習にのめり込み、進路選択時に

は、約10校から声がかかるほどの選手に成長した。家庭を思い、悩んだが、「どこに行ってもいいんだよ。応援するから」という母の言葉に背中を押された。その中でも2019年、武岡龍世(現・東京ヤクルト)らを抑え8強入りした甲子園をテレビで見、「ピットときた。急に行きたくなった」という八学光星に進学先を決めた。昨夏の県大会もメンバー入りし、念願の甲子園出場を決めたものの、地区大会から2人減る甲子園の登録選手制度により、惜しくもメンバー外。今夏はスタメン入りを果たし、ようやく母を甲子園に連れてくることのできた。仕事で多忙な宏恵さんは、

今回の甲子園で初めて、八学光星のユニホームを着てプレーする青木を直接目にした。16日の3回戦。青木は初回に中前に適時打を放つと、五回にも右翼線を破る適時二塁打を放ち、勝利に貢献。宏恵さんは約束の舞台で躍動する青木の姿を見て「甲子園に連れてきてくれれば」と目を細めた。青木は以前、打撃不振に陥り宏恵さんに相談したことがあった。「やるならどことんやれ。どんな結果でも野球を楽しんだら、いい結果がついてくるから」という言葉に救われたという。何不自由なく育ててくれて、つらいときも支えてくれた」と感謝の言葉を口にしつつ「試合中も(左翼の)守備位置からスタンドにいるお母さんと目が合っど、緊張がほぐれた。やっとお母さんの夢をかなえられた」と誇らしげに汗を拭いた。

「洗平空亜(3年) 太鼓で鼓舞」
八学光星の三塁側スタンドには2回戦同様、野球部員や同校の生徒、選手家族らが詰めかけ「ナイスバットインクだ!」「守備からリズミクンズだ!」などとチーンに熱い声援を送った。太鼓をたたきながらナイフを鼓舞し続けた洗平空亜(3年)岐阜県出身は、主戦洗平比呂(2年)の父竜也さんの弟大悟さんの息子。八学光星でエースとしてプレーした、伯父に当た



太鼓をたたきナインを鼓舞する洗平空亜